

賃貸借仕様書

業 務 名 : 令和9～13年度 富谷市立小中学校図書室図書管理システム等賃貸借

期 間 : 令和9年4月1日から令和14年3月31日まで

施行場所 : 富谷市富谷坂松田30番地 富谷市教育委員会 他

名 称 仕 様	数 量	単 位	月額単価	金 額	備 考
令和9～13年度 富谷市立図書室図書管理システム等賃貸借	1	式			リース料率込み 別添仕様書のとおり
以下余白					
小計(A)					
60か月総額 (A) × 60か月 = (B)					
消費税 (B) × 10% = (C)					
合 計 (B) + (C)					

富 谷 市

令和9～13年度
富谷市内小中学校図書室
図書管理システム等賃貸借

仕様書

令和8年10月

富谷市教育委員会

1. 件名

令和9～13年度 富谷市立小中学校図書室図書管理システム等賃貸借

2. 概要

小中学校における読書環境の向上、小中学生の読書能力の発達や調べる学習などの言語活動の充実の更なる支援のために賃借している図書システムについて賃貸借期間が満了になるため、新たに機器を選定し60ヶ月の賃貸借契約を行なうもの。

3. 事業実施場所(納品先)

学 校 名	住 所
富谷小学校	富谷市富谷狸屋敷 85
富ヶ丘小学校	富谷市富ヶ丘一丁目 17-37
東向陽台小学校	富谷市明石台一丁目 37-13
あけの平小学校	富谷市あけの平二丁目 18-1
日吉台小学校	富谷市日吉台1丁目13-1
成田東小学校	富谷市成田六丁目 36-1
成田小学校	富谷市成田三丁目 1-1
明石台小学校	富谷市明石台五丁目 15-1
富谷中学校	富谷市穀田字土間ノ沢 1-9
第二中学校	富谷市あけの平三丁目86
東向陽台中学校	富谷市明石台一丁目 14
日吉台中学校	富谷市日吉台三丁目 19-2
成田中学校	富谷市成田 3 丁目 34-1

4. 納入期限

契約締結日の翌日～令和9年3月31日

5. 賃借期間

令和9年4月1日～令和14年3月31日

6. 業務内容

- ◆ 小中学校13校に別紙1「機器仕様書」記載の仕様を満たす製品を調達、納入し図書館端末(2台/校)にクラウド型図書館サービスが動作する環境を構築すること。但し、本契約期間中において保守が可能な製品であること。
- ◆ 既存ネットワーク及びネットワーク機器を有効活用すること。
- ◆ 現行システム(LB@SCHOOLV2)の書誌、所蔵、利用者、貸出データを漏れなく移行を実施し、納品後速やかに業務が行えるようにすること。
- ◆ 図書館システムの確実なデータ移行を実現する為、必要となるデータ移行作業は図書館システムメーカーに依頼するものとし、費用は本調達に含めること。
- ◆ 図書館システムの操作説明書を作成し、提供すること。

7. サービスの基本的な要件

- ◆ 別紙2「機能仕様一覧」に記載の通りとする

8. クラウドサービス要件仕様

- ◆ 別紙3「クラウドサービス要件一覧」に記載の通りとする。

9. データセンター設備要件について

- ◆ 別紙4「データセンター設備要件」に記載の通りとする。

10. 保守サポート

- ◆ 項目7～9及び別紙5「保守基準要項」に記載のシステムサポートを実施すること。
- ◆ 学校側の導入・運用時のQ&Aはインターネットによりサービス提供者が直接対応すること。
- ◆ 必要時にはセンターサーバの操作・確認により直接Q&A対応を行うこと。
- ◆ サービス障害等の緊急時は電話受付(フリーダイヤル)対応を実施すること。
- ◆ サーバ資産・データの運用管理はすべてサービス提供者が行いデータ保障すること。学校ではバックアップ運用を行う必要がないこと。
- ◆ ソフトウェアの障害について、営業時間内において随時対応すること。
- ◆ ソフトウェアの障害発生連絡を受けた場合には、速やかに障害の切り分けを行い、早急に現状復帰ができるように対策を講じること。

11. その他

- (1) 仕様書に記載が無いが必然的に必要となる機器、ソフトウェア、設定については今回の調達範囲に含めること。
- (2) 事業実施に際し責任者を選任し報告すること。
- (3) 本件において知り得た情報は本件の目的以外に使用し、又は第三者に開示もしくは漏洩してはならない。
- (4) 落札者は、落札後にシステム構築の成果物(様式は任意)を提出すること。
- (5) 請求書に小学校、中学校それぞれに係る費用の内訳を記載すること。

以 上

3 ソフトウェア

	品名	仕 様	単位	数 量																
				富谷小	富丘小	東向小	あけ小	日吉小	成東小	成田小	明石小	富谷中	西成田	富二中	東向中	日吉中	成田中	市教育	教育セ	合計
1	学校図書館システム 参考品：LS@SCHOOL	富谷市内小中学校で連携ができること。	式	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	14	
2	オフィスソフト	Microsoft Office 2024 Standard	式	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	0	26	

令和9～13年度
富谷市内小中学校図書室図書管理システム等貸借仕様書
別紙2 機能仕様一覧

- I 全般、共通事項
- II 窓口業務—先生用_貸出・返却・督促
- III 利用者管理
- IV 資料検索・予約
- V 児童生徒画面・校内検索
- VI 資料管理業務
- VII 相互貸借
- VIII 学校図書専用業務
- IX 帳票

別紙2 機能仕様一覧

I. 全般、共通事項

分類	No.	要求機能
基本要件	1	地域の学校図書資源の共有化をサポートするシステムであること。
	2	各学校でのシステム運用負荷を考慮し、プログラムおよび各種データはセンターに設置するサーバで一元管理（バックアップを含む）し、各学校にはデータベースサーバが不必要であること。
	3	各学校での蔵書情報等の登録にあたっては、400万冊以上の標準書誌データ(以下「全件MARC」という)を活用でき、そこから必要な書誌データを即時に引き出せること。
	4	全件MARCは提供元MARC会社とのネットワーク連携により、常に最新の新刊情報データが利用できる仕組みを有す
	5	システムは、先生用と児童・生徒用の2つインターフェースを持ち、先生用機能はI D／パスワードによる利用制限がされていること。
インフラ	6	クライアントOSはWindows10以降であること。
	7	図書システムの各業務で利用するブラウザは最新のMicrosoft Edge、Google Chromeで動作可能であること。
セキュリティ	8	図書館システムは、セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン（applet）やクライアントで動作する仕組み（JWS）などではないこと。
	9	学校とサービス提供元は暗号化（ssl通信）された通信により接続されること。
	10	図書館システムは、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。
	11	貸出／返却／予約や、利用者登録／検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存ができること。
言語	12	多言語(UTF-8)を扱えるシステムであること。
操作性	13	処理選択・コード値選択等がマウスおよびファンクションキーで操作できること。キーボード操作も可能で各入力項目間の移動もTABキー・矢印キーで可能であること(矢印キーは上下矢印による移動も可能であること)。
	14	入力項目のカーソル位置が一目で分かるように色等による強調表示ができること。
	15	入力項目で複数エラーが発生した場合は、どの入力項目がエラーなのかが一目で分かるように注意表示による強調表示ができること。
	16	日付項目はカレンダーからの入力ができること。
	17	カレンダー上にて図書館の休館日を確認できること。
	18	コード項目はプルダウンからの選択が可能なこと。
	19	各種確認画面でのYes/No選択を、バーコード走査でできること。
	20	各関連業務内の処理画面(窓口業務内の貸出、返却等)の個々の展開はホーム画面に戻らなくてもできること。
	21	業務画面は、画面サイズを任意に変更可能なこと。
	22	1画面内でタブ切替えにより複数の情報を表示できること(例：貸出画面で貸出状況、予約状況、利用者通知が切替え表示可能)。また、各タブに件数を表示できること。
	23	画面で表示する各種一覧は、選択された明細または特定の項目に関し、コピー＆ペーストが可能なこと。
	24	表示中画面から全ての他画面へ切り替えが可能なこと（例：貸出⇒書誌登録）
	25	バッチ処理に必要なインプットファイルをドラッグアンドドロップの簡単操作で指定できること。
保守性	26	学校側の端末設定はインストーラのみにより簡単設定ができること。
	27	サーバ管理業務（データバックアップ、サーバセキュリティ管理、システムレベルアップ等）は全てデータセンターで管理・運用し学校側の運用作業は一切発生しないこと。

その他	28	学校司書向けの「おしらせ・イベント情報」表示ができること。「おしらせ・イベント情報」は任意、かつ、複数の設定、表示が可能であること。
	29	指定した期間のみお知らせを表示させる機能があること。
	30	お知らせは下書きの機能があり、掲示の可否について設定できること。
	31	学校図書館業務機能以外に、オンラインサポート機能、コミュニケーション機能も有すること。
	32	オンラインサポート機能により、サービス提供元にWebフォームによるQ&Aが行えること。また、Q&A履歴の参照や、FAQ参照、事例検索などのサポート機能が利用できること。
	33	オンラインサポート機能によりサービス提供元からの製品・サポートに関する公開情報を参照できること。
	34	コミュニケーション機能により、サービスを利用している他校との情報交換・共有が可能であること。
	35	ライブラリ機能により、操作支援コンテンツや各種ドキュメントの参照・ダウンロードができること。
	36	FAQ機能により、過去のQ&A情報やアナウンス情報の参照・検索ができること
	37	Q&A機能により、Webフォームからの質問発信、回答参照、過去ログ参照ができること
	38	サービスを利用している利用者間で、情報・データの参照／共有（アップロード・ダウンロード）交換を行えること
	39	掲示板機能の利用ができること。
	40	サイト内データの横断検索ができること

別紙2 機能仕様一覧

Ⅱ. 窓口業務－先生用_貸出・返却・督促

分類	No.	要求機能
貸出	1	カウンターにおいて利用者に資料の貸出サービスを行い、個人貸出・団体貸出・館内閲覧に対応できること。
	2	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	3	利用者コードと資料コードのバーコード走査のみで処理が可能なこと。
	4	バーコード走査により、「貸出確定」「貸出画面／返却画面切替」ができること。
	5	利用者カードを忘れた利用者の場合、貸出画面内で利用者検索し利用者特定～貸出処理が可能なこと。
	6	利用者カードを読み込んだ利用者について、詳細情報表示や登録内容の更新が可能なこと。
	7	利用者の有効期限が迫っている場合、貸出画面で通知・更新可能なこと。
	8	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行できること。
	9	学校毎かつ利用者資格毎に貸出規則（貸出日数・延期日数・延期回数・督促警告回数・貸出冊数・合計貸出冊数）設定ができること。主な貸出規則毎の現在貸出数が表示できること。
	10	利用者に対するコメント（忘れ物、落し物、その他の案内等）通知ができること。
	11	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。また1回表示後に自動消去されるコメントも登録できること。
	12	通知コメントが登録された利用者カードを走査した場合、優先的に通知コメントの一覧が表示されること。
	13	資料についてのコメント（付録あり、汚れあり等）通知ができること。
	14	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。
	15	未登録の利用者や資料でも登録することなく、すぐに貸出できること。後から登録し貸出情報と紐づけできること。
	16	貸出冊数オーバー・期限切れ利用者・督促利用者・予約有り利用者・無効利用者・コメント有り等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
	17	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・持禁資料・仮登録資料・他校資料を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
	18	各種チェック項目に該当した時、条件により、操作員の判断で続行するか中止するかを選択できること。
	19	貸出画面上で利用者の現在貸出中・予約中資料一覧を表示できること。(10件以上／画面)
	20	貸出中の資料を選択指定することで貸出期間の延期ができること。
	21	延期回数が貸出規則の回数を超過したり予約資料の時は自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知し延期の可否を判断できること。延期時に当初の貸出日を変更せず保持すること。
	22	貸出中資料の資料コードを再走査することで継続貸出ができること。
	23	休館日設定により、返却予定日をカレンダー管理（休館日を避ける）し、また貸出画面での随時変更もできること。
	24	その日1日の学校毎の貸出冊数、貸出人数の概数を画面に表示できること。
	25	貸出資料一覧表示時、貸出規則(図書・雑誌・AV等)、返却予定日が表示され、何を何点借りているか表示できること。
	26	未返却資料を貸出すと、今までの貸出利用者が確認でき、同時にその自動返却処理が行われること。
	27	貸出処理完了前であれば、今貸出した資料の取消ができること。また、取消し時は統計データに反映されないこと。

	28	貸出画面から予約の取消ができること。
	29	貸出画面から紛失処理ができ、督促の対象から外すことができること。
	30	予約していた資料を貸出すると、予約データは消去されること。
	31	貸出状況一覧で、資料詳細画面へ遷移し、資料の最終返却者が確認できること。
	32	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報や予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。
	33	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	34	予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	35	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージをすべて表示可能なこと。
	36	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。
	37	長期休暇、臨時休館日等の設定およびメンテナンスができること。
	38	貸出・返却の作業終了後、画面を切り替えることなく次の貸出・返却の処理を実行できること
	39	貸出累計回数の管理ができること。また年度毎の貸出回数も確認できること。
返却	40	返却資料のバーコード走査だけで返却が完了できること。
	41	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	42	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行ができること。
	43	利用者に対する日本語コメント（忘れ物、落し物、その他の案内等）通知ができること。
	44	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。また、1回表示後に自動消去されるコメントも登録できること。
	45	資料についての日本語コメント(付録あり、汚れあり等)通知ができること。
	46	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。
	47	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・仮登録資料・未貸出資料を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知でき
	48	無効(不明・紛失)となっている資料の返却を行うと、設定により、自動的に無効を解除することもできること。
	49	新刊コーナの資料のバーコードを走査した時、自動で本来の配架場所に変更できること。
	50	返却資料のバーコード走査後、貸出画面への展開は次に貸出を行う利用者カードを走査することにより遷移できること。また、バーコードリーダだけで、「貸出⇄返却画面切替え」「貸出・返却確定」ができること。
	51	用途に合わせて下記3種類の返却モードが用意されていること。また処理場面に応じてワンタッチでモード切替が可能なこと。 ・通常返却(開館中利用者と対面し返却する場合のモードで未返却資料をタブ切替ですぐに表示できること) ・ポスト返却(ブックポストへの大量返却時等、返却利用者チェックを行わず連続で返却が行え、返却資料が一覧画面に蓄積できること)
	52	返却画面で貸出延期ができること。
	53	貸出資料一覧表示時、貸出規則(図書、雑誌、AV等)が表示され、何を何点借りているかの識別ができること。
	54	その日1日の館毎の返却冊数、返却人数を画面に表示できること。(概数を表示ができること)
	55	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。
	56	返却状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	57	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	58	予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	59	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージをすべて表示可能なこと。
	60	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。
	61	返却画面で利用者のバーコードをなぞると自動で貸出画面に遷移すること。
	62	返却期限を超過している利用者に、催促一覧及び催促状の出力ができること。
	63	返却時に予約本は、メッセージまたはポップアップで予約状況の表示が行われ、取り置きが出来ること
オフライン	64	ネットワーク障害等でサーバへの接続が出来ない場合でも、オフラインで貸出・返却を行えること。
督促	65	督促の印刷条件として、返却予定日からの経過日数の他、返却予定日の範囲でも指定できること。

別紙2 機能仕様一覧

Ⅲ. 利用者管理

分類	No.	要求機能
利用者検索	1	利用者氏名(カナ、日本語、全半角の混在が可能)、利用者コード、クラス、利用者資格、E-mailアドレスからの検索ができること。
	2	利用者データ検索において無効理由区分で絞込みができること。
	3	利用者検索一覧では、利用者の利用者番号、利用者名、性別、利用者資格、貸出数、予約数、クラスが確認できる
	4	利用者の詳細情報が表示できること。氏名、最終利用日、予約順位、予約待ち順位、貸出資料一覧、予約資料一覧等が確認できること。
	5	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	6	貸出資料の不明／紛失／弁償処理ができること。
	7	貸出資料の詳細情報が表示できること。（資料検索結果画面相当の情報）
	8	予約している資料一覧が表示できること。更に、予約解除や予約資料の詳細情報も表示できること。
	9	予約している資料一覧では表示される情報全項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できるこ
	10	コメント入力機能連携にて利用者に通知したいコメント情報を登録できること（コメント数は無制限）。また、修正、削除もできること。
利用者登録	11	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	12	新規利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の削除、利用者カード紛失時等の再交付処理ができ
	13	利用者氏名は漢字を入れ、ワンタッチでの自動ヨミ振りができること。
	14	利用者カードの再発行ができること。その場合、貸出・予約情報は引き継がれること。
	15	利用者氏名・ヨミを全半角混在で登録できること。
	16	新規登録時、検索で未登録確認後、登録画面に検索条件を複写できること。
	17	コード入力項目へ入力域が移動するとコンボボックスにコード一覧が表示され、マウスで選択入力できること。また、コード値をキーボードで直接入力もできること。
	18	貸出や返却でアラーム通知するコメント情報の追加、修正、削除ができること。また、1利用者につき設定できるコメント数は無制限とし、フリーワードの入力もできること。
利用者管理	19	有効期限や最終利用日等の条件に該当する利用者を抽出し、無効区分、利用者資格区分等の情報を一括で更新でき
	20	任意の無効日付、無効区分を指定し、一括してデータ削除できること。あくまで任意処理であり、年度末等に自動で削除されないこと。

別紙2 機能仕様一覧

IV. 資料検索・予約

分類	No.	要求機能
資料検索	1	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	2	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
	3	自校で修正・入力した書誌データと各マークデータをまとめて検索できること。
	4	AND、OR、NOTを使用し、項目間の複合高速検索ができること。
	5	10件までの検索結果が履歴管理され、後からその検索結果一覧を表示できること。 また、検索履歴からその時の検索条件を復元でき、条件を付加することでより詳細な検索ができること。
	6	項目により、前方一致、完全一致および中間一致(分かち項目)で認識し、検索ができること。
	7	各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角両方で指定して検索処理ができること。
	8	特定書誌の資料の所蔵資料・未所蔵資料等の状態が検索結果から把握でき、また、書誌の詳細情報を目録カード形式で表示できること。
	9	検索結果から所蔵の状態(不明資料・除籍・貸出中等)の把握ができること。 また、複本に対応していること。(検索結果の表示形式を「書誌」or「所蔵」単位で切替できること)
	10	検索結果は、利用可能／貸出中／貸出不可／除籍／相互貸借資料／未所蔵により色を分けて分かりやすく表示できること。
	11	印刷のほか、CSVファイルで保存やエクセルファイルで保存も可能なこと。
	12	検索中断件数を設定できること。
	13	検索処理中断ボタン操作でも中断可能なこと。
	14	対象館を全校、自校限定、または、任意に複数校指定して検索でき、検索結果も、本が今、どの学校のどこでどのような状態になっているかを一目瞭然に表示できること。
	15	所蔵場所区分、請求記号等の所蔵(ローカル)項目を一次キーとして検索ができること。また、書誌項目との複合検索もできること。
	16	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力し
	17	洋書等の登録で英字、数字が全半角混在で入力した場合でも、全角、半角、全半角混在で入力した場合でも検索でき、検索結果は変わらないこと。
	18	資料一覧画面では通常登録順(最新が上)だが、ワンタッチで書名順、著者名順、分類順等で整列(ソート)できること。
	19	前項設定以外でも全一覧項目での並べ替えが可能なこと。(ヘッダーソートが可能なこと)
	20	資料詳細画面にて貸出中の資料表示時、ワンタッチで利用者詳細画面へ展開し、利用者氏名が確認できること。
	21	資料一覧画面または、資料詳細画面から、書誌登録、所蔵登録、予約へ展開できること。
	22	種別(図書・雑誌・AV等)の複数指定による横断検索ができること。
	23	本に印刷されているISBN/バーコードの読取り検索ができること。
	24	雑誌のタイトル情報のみを対象として検索ができること。また、検索値未入力でも全タイトル検索ができること。
	25	検索結果で利用状況一覧が表示できること。また、そこで紛失／不明／弁償処理ができること。
	26	検索結果で予約状況一覧が表示できること。また、そこで予約解除ができること。
	27	資料詳細で所蔵毎の最終利用者を表示できること。
	28	資料詳細画面で貸出中資料の場合に、利用者氏名と返却予定日の確認ができること。
	29	検索結果一覧から特定の資料を選択し、その資料の検索キーワード(著者名等)で再検索ができること。
	30	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
	31	内容注記や一般注記のように、分かち書きされていない書誌事項の、文中の文言について検索できること。
	32	資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	33	利用状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。

	34	予約状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	35	国立国会図書館が保有する書誌情報と横断検索が可能なこと
	36	国立国会図書館が保有する書誌情報の検索結果がダウンロード可能なこと
	37	TRC-TOOLi-Sサイトとの横断検索が可能なこと
	38	TRC-TOOLi-Sサイトから取得した情報から、書誌登録・相互貸借の連携が可能なこと
	39	公共図書館が富士通の場合、先生用資料検索画面から公共図書館の蔵書検索が可能なこと。
	40	教育センター用の機能として地域内の学校の蔵書が確認できること。
予約	41	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	42	館毎かつ利用者資格毎に予約冊数の設定ができること。
	43	予約本の現在の状態(予約中、予約棚)の管理ができること。
	44	書誌予約に対応できること。 複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知ができること。
	45	予約した時間で予約順位を決めること。また、予約順位の変更もできること。順位変更しても予約入力日時は保持されること。
	46	予約資料の提供予定日を表示できること
	47	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	48	予約メモ入力ができること。
	49	任意に予約取消ができること。
	50	予約取消時、予約取消理由を登録できること。
	51	予約処理で資料の検索、利用者の検索処理ができること。
	52	資料一覧画面と連携し、資料一覧画面で複数の資料を選択し、一括予約ができること。また、課題図書等のグループ単位での予約もできること。
	53	予約棚(予約資料の確保状態)を変更できること。
	54	予約資料の詳細表示ができること。(検索相当の表示ができること)

別紙2 機能仕様一覧

V. 児童・生徒画面、校内検索

分類	No.	要求機能
基本機能	1	児童・生徒用のインターフェースは、小学校低学年の児童が自ら利用することに十分配慮されたグラフィカルでわかりやすいものであること。
	2	児童・生徒用画面のデザインは、季節または月に合わせて自動的に変化するアクションがあること。
	3	児童・生徒画面は端末起動と同時に自動起動設定ができること。
校内検索	4	書名・著者名等の検索キーワードをタッチスクリーン操作で入力し、資料の検索ができること。
	5	キーボードレス(タッチスクリーン)操作で複合キー検索により、資料の検索ができること。
	6	キーボードによる検索もできること。また、キーボード入力時はカナ漢字混在による検索ができること。
	7	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
	8	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ゃ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても
	9	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧の表示ができること。
	10	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
	11	詳細画面から予約申込ができること。
	12	予約件数の制限がかかること。学校毎に利用者資格毎の件数制限ができること。
	13	予約申込時、申込内容の確認画面を表示できること。
	14	一定時間経過後、自動的にトップ画面に戻れること。
	15	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせ表示ができること。
	16	画面遷移をパンくずリストとして表示し、パンくず指定にて画面遷移できること。
	17	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。
	18	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
	19	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。
	20	キーワード検索にて地域／自校限定／特定校(任意の複数校)限定の指定ができること。また、自校所蔵の資料に限定した検索ができること。
	21	ベストリーダー一覧が表示できること。
	22	検索結果一覧は資料管理区分単位で表示ができること。
	23	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
	24	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
	25	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
	26	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できるこ

	27	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
	28	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
	29	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。
	30	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。
	31	児童・生徒用の資料検索画面では設定により、高機能検索が利用できること
	32	児童・生徒用の資料検索画面では書影表示ができること
	33	各学校の図書業務端末から検索が可能で、検索結果として書誌、所在、貸出状況等の情報がリアルタイムに表示できること。
	34	自校の蔵書の他に本システムで管理された他校の蔵書情報を検索できること。
	35	新着図書一覧の表示ができること。
	36	新着図書は受入日より一定期間が過ぎたら一覧から自動的に削除されること。
	37	検索結果一覧の各項目はソートできること。
	38	検索結果一覧で、所蔵状況有無及び貸出可否の表示ができること。
	39	新たに公開サーバー等を構築することなく校内検索を行える機能を有すること。
	40	校内検索は学校外からは検索できないようセキュリティ面での措置を施すこと。
	41	学校内のネットワークに接続した機器から学校図書館の蔵書検索が出来ること。
	42	ChromeやSafariなどのブラウザからの検索にも対応できること。
	43	学校内であれば接続台数に制限がないこと
児童生徒用貸出返却機能	44	専用機ではなく通常のパソコン端末で利用者自身が貸出・返却できること。
	45	先生・司書用の機能とは別に、児童・生徒自身で貸出・返却・資料検索ができること。
	46	児童・生徒用のインターフェースは、小学校低学年の児童が自ら利用することに十分配慮されたグラフィカルでわかりやすいものであること。タッチディスプレイでの運用もできること。
	47	現在貸出中の資料名・返却予定日を画面で確認できること。
	48	貸出・返却の作業終了後、画面を切り替えることなく次の貸出・返却の処理を実行できること。
	49	バーコードリーダの走査により、「貸出確定」「貸出画面／返却画面切替」ができること。
	50	貸出画面には、年度内に借りた累積冊数表示が出ること。
	51	累積貸出冊数に応じて表彰メダル表示アクションの変化があること。
	52	誤操作防止の為、バーコードリーダ自体の受付音ではなく、入力受付、エラー表示、ポップアップ表示時にそれぞれの判別可能な音を出すことができること。
	53	利用者情報が表示されている状態で一定時間が過ぎると画面が利用者確定前の画面に戻ることに。
	54	児童・生徒用の返却画面で予約資料の確保ができること。
	55	児童・生徒用の返却画面で予約資料返却時、予約情報(予約利用者のクラスと氏名、予約資料タイトル等)が表示できること。
	56	児童・生徒用の資料検索から予約申し込みができること。
	57	児童・生徒用画面からの予約申し込みは利用者番号の入力だけでできること。
	58	児童・生徒用画面のデザインは、４つから選択できること。また四季に応じて背景が変化すること
	59	児童・生徒用画面のデザインは、設定によりいつでも変更できること
	60	TRC-MARCを選択した場合、児童・生徒用の資料検索画面では学習件名検索や教科書単元検索等の調べ学習検索機能が検索画面から使えること

別紙2 機能仕様一覧

VI. 資料管理業務

分類	No.	要求機能
図書管理	1	各種可変長マークデータは完全に取り込むことができること。(完全可変長項目数対応)
	2	複本のデータ管理ができること。
	3	著者名・叢書名・出版社名・書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力ができること。
	4	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。
	5	書名・著者名等にて入力した漢字項目から自動的にヨミ振り分かちができること。
	6	書名などカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。
	7	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
	8	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、各学校の業務に完全対応できること。
	9	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。
	10	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	11	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
	12	TRCのTOOLi-Sとシームレスな連携ができること。
	13	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	14	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。
	15	標準書誌データ以外に学校独自のローカル書誌データの蓄積ができること。
	16	蔵書データ登録時に各学校独自のデータを入力できること。
雑誌管理	17	タイトル書誌一覧機能により入力が簡略化でき、タイトル／巻号の書誌連携が容易であること。雑誌タイトル(タイトル書誌)は、雑誌コードによる呼出しができること。
	18	タイトルと各巻情報を分けて管理し、検索できること。
	19	タイトル一覧画面より巻号(バックナンバー)一覧画面を表示できること。
	20	各種情報を可変長にて登録し、検索できること。
	21	最新巻号の登録時に、直前号の貸出禁止が解除され、最新号を自動的に貸出禁止にできること。また、登録時に貸出禁止期限を予め設定もできること。
	22	最新巻号の登録時に、直前号の巻号情報、およびローカル情報を初期表示できること。
	23	著者名・叢書名・出版社名・書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力が可能であること。
	24	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、各学校の業務に完全対応できること。
	25	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。
	26	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	27	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列化する為の序数化の自動付与ができること。
	28	雑誌のJANコードを読み取って受入ができること。
	29	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面で、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	30	内容記事入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。
AV管理	31	曲名・演奏者・出演者等の各種情報を漏れなく可変長登録できること。
	32	各種情報を可変長で登録し、検索できること。
	33	複本のデータ管理ができること。
	34	著者名・シリーズ名・出版者名、タイトル等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力できること。
	35	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
	36	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、各学校業務に完全対応できること。
	37	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。
	38	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	39	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。

	40	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること
	41	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。
	42	内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録でき
蔵書管理	43	館コードにより各学校毎の管理ができること。
	44	ISBNコードのある本の蔵書登録については、ISBNコードと既に貼付したバーコードの2つを読み取るだけで、書誌データと自動的に連携し所蔵登録できること。
	45	寄贈本の場合、寄贈者の氏名等を入力する項目があること
	46	貸出累計回数を確認することができること。また貸出累計回数は自動でカウントされること
	47	受入価格については、税込み、税抜き、税額の3つが管理できること
	48	持禁区分の設定・変更処理が連続でできること。
	49	資料の除籍・復籍処理が連続でできること。
	50	該当資料が手元に無い場合でも検索から該当資料を発見し、ローカル情報の変更処理ができること。
	51	コード値(所蔵場所コード等)入力時、コード一覧を表示し、選択入力できること。また、キーボードより直接コード値入力もできること。コード選択時は名称にて一覧から選択できること。
	52	バーコード入力により、所蔵場所コード等、区分・コード値変更を連続でできること。また、変更履歴の画面表示、およびバックアップをダウンロードし、変更内容の保存／復元ができること。
	53	ハンディーターミナルで読み込んだバーコード情報より、所蔵場所コード等、各区分・コード値の一括変更ができること。
	54	マークデータと装備されたバーコードに誤りがあった場合など、書誌(タイトル)情報とローカル情報がミスマッチの時、バーコードの貼り替えをせず、データ側を組替えて対応することができること。
	55	装備されているバーコードが汚れ等で読取できなくなり、別な番号でバーコードを貼り替える場合、各種データのバーコード番号も同期をとって変更できること。
蔵書点検	56	蔵書点検前処理等の事前処理無しで蔵書点検が開始できること。
	57	オンライン、オフラインの両方で蔵書点検ができること。
	58	ハンディーターミナルでバーコードを入力し、棚の本の在庫点検ができること。また、不明・除籍・未登録・貸出中未返却(自動的に返却処理される)・配架間違いの資料のチェックリストを出力できること。
	59	蔵書点検時に未登録本・仮登録本を検出した場合は、エラーリストにその情報が出力されること。また、エラーリストには、未登録本・仮登録本の資料コードだけでなく、直前に入力された本の書名も併せて表示され、容易に未登録本を探すことができること。
	60	蔵書点検の結果、不明資料一覧を印刷できること。
	61	一定(任意指定可)回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。なお、除籍資料は任意に復籍もでき
	62	各学校(及び場所)毎に蔵書点検ができること。
	63	図書室を開館しながら蔵書点検を実施できる機能を有すること
	64	点検後、不明本が見つかって利用する際には、点検不明回数をリセットすることが出来ること。
受入	65	TRC-MARCを選択した場合かつTRCより書籍の購入を行った場合、資料の所蔵データは自動でシステムに登録されること
	66	TRC-MARCを選択した場合、先生用の資料検索では設定によりTRCの全件MARCも検索対象とすることができる
	67	各種マークデータにより一括受入後、専用画面で検収処理ができること。また、検収前の本は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすることができること。
	68	現物受入の際には各学校、資料種別、請求記号等毎に設定されたローカル情報の規定値を表示できること。また業務の再起動を行わなくても規定値の変更ができること。

別紙2 機能仕様一覧

Ⅶ. 相互貸借

分類	No.	要求機能
相互貸借	1	利用者からのリクエストに応じて、他校への相互貸借資料の借受依頼ができること。 ※【前提条件】資料コードの重複が無いこと
	2	どこの学校からどの資料を借りているか画面で表示可能であること。また、借受校へ返却済か等の状態も表示可能であること。
基本機能	3	図書バーコードを貼り替えたり、登録し直すことなく、学校間で図書の相互貸借ができること。
	4	各学校の業務端末から、他の学校へ相互貸借のためのリクエストを行うことができること。
テーマリクエスト	5	相互貸借のリクエストが自校に来ている場合、業務端末の起動時にメッセージが表示され知らせる機能があること。
	6	学校間で以下のパターンの相互貸借連携機能（依頼・受諾/拒否・貸出・返却）ができること。
	7	本を特定せず、借り受けた本のテーマを指定して他校へ相互貸借依頼（テーマリクエスト）ができること。
	8	テーマリクエストの内容は任意の文章で入力できること。
	9	依頼のテーマに対しては、返信/再依頼のやり取りが複数回行えること。
	10	テーマ依頼を受けた学校は、自校で選定した本を複数冊まとめて一回の処理で貸し出すことができること。
	11	依頼状態はリアルタイムに検索・確認ができること。
	12	相互貸借で貸し出された本は、貸出校とは別の学校へ、又貸しを行えること。
	13	貸借本の受入・返却は管理画面でのバーコード読み取りのみの操作で行えること。その際、所蔵データの移動も自動で行われること。
	14	テーマリクエスト貸し出された本は、複数冊を一括して受入・返却処理が可能であること。一冊ずつの受入・返却処理もできること。
定期便機能	15	相互貸借で貸し出された本の所在・状態は相互貸借管理画面で、リアルタイムに確認ができること。
	16	学校間を定期的に巡回する定期便（移動図書館）の管理ができること。
	17	定期便は、貸出校が任意に複数の本を定期便としてグループ化し、団体貸出ができること。
	18	定期便は、相互貸借の依頼が無くても直接貸出校を指定して貸出処理を行えること。
配送管理機能	19	定期便で貸し出された本は、複数冊を一括して受入・返却処理ができること。一冊ずつの受入・返却処理もできること。
	20	学校から貸出・返却する本（配送中）の本を、管理画面からまとめて一覧印刷（集配表）ができること。
	21	集配表の学校の順番は、システムの設定で変更できること。
	22	集配表は配送車の台数に合わせて複数印刷できること。また、配送タイミング（毎日、週1回等）に合わせて集配日が集計・表示されること。
	23	学校の相互貸借画面で配送指定を行うと、配送予定日が表示され確認できること。
	24	学校の配送指定処理において、処理時間が予め設定した配送締切り時間（システム設定）を過ぎた場合、配送日が自動的に切り替わること。
書名リクエスト	25	他校の所蔵を検索し、相互貸借依頼をかける事ができること。
	26	依頼を受けた学校は、許可/保留/拒否の回答とコメントの返信ができること。
	27	依頼状態はリアルタイムに検索・確認が可能であること。
	28	相互貸借で貸し出された本は、貸出校とは別の学校へ、又貸しを行えること。
	29	相互貸借で貸出中の本に、他校からの貸借依頼を受けた場合は、借受校が返却処理を行う際に、次の貸出校への回送指示が自動で表示されること。
	30	貸借本の受入・返却は管理画面でのバーコード読み取りのみの操作で行えること。その際、所蔵場所の移動も自動で行われること。
	31	相互貸借で貸し出された本の所在・状態は相互貸借管理画面で、リアルタイムに確認ができること。

別紙2 機能仕様一覧

Ⅷ. 学校図書専用業務

分類	No.	要求機能
学校図書専用業務	1	全学校を対象に、利用者・資料の管理、帳票出力が可能なセンターモードに対応できること。
	2	児童・生徒用画面のウィンドウサイズは、ワイドディスプレイに対応していること
年度管理	3	各学校毎にクラス単位での進級/卒業処理が一括で行えること。
	4	クラス更新後、クラス毎に出席番号を設定できること。生徒データを男女別、または男女混合で自動的に氏名順に並び替えができること。
	5	CSV形式のデータの取り込みによる利用者データの一括登録ができること。
	6	利用者データをCSV形式に出力できること。
	7	卒業生に資料の貸出中利用者がある場合は、その利用者は削除出来ないようになっているこ

別紙2 機能仕様一覧

IX. 帳票

分類	No.	要求機能
基本機能	1	統計資料はExcelと連係し画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。また、Excelで2次加工(グラフ作成等)や保存することができること。
	2	利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果がCSV形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。CSVファイルは項目見出しつきで出力されること。
	3	帳票印刷形式に成形されたExcelデータとして出力できること。
帳票		以下の帳票が出力可能であること。
	4	新着資料一覧表
	5	無効資料一覧表
	6	未利用資料一覧表
	7	図書原簿
	8	所蔵一覧
	9	図書一覧
	10	雑誌タイトル一覧表
	11	貸出資料一覧表
	12	督促状
	13	返却督促一覧
	14	予約図書連絡票
	15	予約資料一覧表
	16	予約在架資料一覧表
	17	予約解除資料一覧表
	18	利用者資格別資料区分別利用統計
	19	統計分類別所属別貸出統計
	20	統計分類別利用者資格別利用統計
	21	統計分類別貸出実績表
	22	統計分類別貸出統計
	23	学年・クラス別貸出日報
	24	学年・クラス別貸出月報
	25	学年・クラス別貸出年報
	26	多読者一覧表
	27	利用者毎貸出実績
	28	資料毎貸出実績
	29	個人読書傾向表
	30	日別利用統計
	31	月別利用統計
	32	学校別貸出統計
	33	ベストリーダ
	34	ベストリクエスト
	35	分類別蔵書統計表
	36	分類別蔵書統計表(リアルタイム)
	37	蔵書総括表
	38	表彰状
	39	相互貸借実績統計表
	40	三段背ラベル(キハラ)
	41	一段背ラベル(埼玉福祉会)
	42	利用者カード
	43	利用者カードクラス別
	44	利用者/資料コード
	45	利用者台帳
	46	エラーリスト/不明一覧

別紙2 機能仕様一覧

IX. 帳票

分類	No.	要求機能
基本機能	1	統計資料はExcelと連係し画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。また、Excelで2次加工(グラフ作成等)や保存することができること。
	2	利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果がCSV形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。CSVファイルは項目見出しつきで出力されること。
	3	帳票印刷形式に成形されたExcelデータとして出力できること。
帳票	4	新着資料一覧表
	5	無効資料一覧表
	6	未利用資料一覧表
	7	図書原簿
	8	所蔵一覧
	9	図書一覧
	10	雑誌タイトル一覧表
	11	貸出資料一覧表
	12	督促状
	13	返却督促一覧
	14	予約図書連絡票
	15	予約資料一覧表
	16	予約在架資料一覧表
	17	予約解除資料一覧表
	18	利用者資格別資料区分別利用統計
	19	統計分類別所属別貸出統計
	20	統計分類別利用者資格別利用統計
	21	統計分類別貸出実績表
	22	統計分類別貸出統計
	23	学年・クラス別貸出日報
	24	学年・クラス別貸出月報
	25	学年・クラス別貸出年報
	26	多読者一覧表
	27	利用者毎貸出実績
	28	資料毎貸出実績
	29	個人読書傾向表
	30	日別利用統計
	31	月別利用統計
	32	学校別貸出統計
	33	ベストリーダー
	34	ベストリクエスト
	35	分類別蔵書統計表
	36	分類別蔵書統計表(リアルタイム)
	37	蔵書総括表
	38	表彰状
	39	相互貸借実績統計表
	40	三段背ラベル(キハラ)
	41	一段背ラベル(埼玉福祉会)
	42	利用者カード
	43	利用者カードクラス別
	44	利用者/資料コード
	45	利用者台帳
	46	エラーリスト/不明一覧

別紙3 クラウドサービス要件一覧

業務		項番	説明
公的認証	クラウドサービスセキュリティ	1	図書館SaaSとしてISO27017を取得していること。
契約	契約期間	2	契約期間には、最短・最長とも期限を設けずに柔軟に対応すること。
	中途解約	3	1カ月程度の期間を設ければ、違約金を生じずに中途解約できること。
可用性	職員機能の運用時間	4	全ての開館日、7:00～19:00に使用できること。
	計画停止予定通知	5	最短でも14日前までには必ず通知をすること。
	重大障害時の代替手段	6	重大障害時にもPC単独で貸出業務を継続できること。
	計画停止（メンテナンス）	7	計画停止は、月1回（最大6時間まで）までとする。
	パッチ適用	8	事前に図書館と協議し、適用タイミングを調整すること。
障害対応	データベース	9	RAIDによる二重化等の冗長化を施してあること。
	重大障害からの復旧時間	10	アプリケーションレベル（サービス再起動による障害復旧）：1時間以内、それ以外（OS/ハード障害）は48時間以内であること。
	復旧範囲	11	前日閉館状態のバックアップまで復旧できること。
	障害通知プロセス	12	緊急時は、Webページにお知らせを掲載すること。
拡張性	同時接続利用者数（業務）	13	契約端末ライセンス数まで同時接続可能なこと
	同時接続利用者数（Web）	14	同時接続利用者数は、500アクセス以上であること。
	拡張要望への対応	15	年2回以上図書館からの要望を収集し、優先度に基づき順次パッケージ機能の追加開発へと反映させること。
センターサポート	受付時間帯	16	WebによるQA受付は24時間365日対応すること。
	対応時間帯	17	受付後は開館日の9:00～17:00に速やかに対応をすること。
	対応体制	18	現地担当SEと連携してサポートを行うこと。
運用管理	運用者	19	クラウドサービス及びシステム基盤の運用は契約企業（もしくは100%資本の関係会社）自身で運用・保守を実施していること。
	稼動監視	20	アプリケーション変更、ポート監視、ハードトラブル監視を行うこと。
	検知時対応	21	異常値やトラブル、ハードウェア故障の予兆を確認した場合は、速やかに必要な措置を取れること。
	緊急時対応	22	重大障害への対処や緊急性の高いセキュリティ対応が必要な際に、パッケージシステム運用担当者が即時対応で駆けつけること。
	資源監視	23	サーバの資源使用量を随時監視し、必要に応じて拡張計画を立案し、使用料の範囲で実施すること。
データ管理	バックアップ方法	24	日次で自動取得し、センター内に保存すること。アクセス権は運用管理者のみに制限すること。
	バックアップ保存期間	25	3世代以上保存すること。
	統計データ保持期間	26	6年以上保持すること。
情報保護	脆弱性チェック	27	脆弱性情報を常に収集し、改善事項に対して速やかに対策を講じること。
	セキュリティパッチ	28	OS・ミドルウェアのセキュリティパッチを適用し、安全性を保つこと。
	セキュリティに関する評価	29	年1回以上セキュリティ全般に関する監査を実施すること。
	ウィルスチェック	30	保護ツールによるリアルタイム対策を行うこと。
	情報取得者の制限	31	利用者データにアクセスできる技術者は、セキュリティ管理者の許可を得た者に制限し、担当者は個人情報保護に関する教育を定期的に受講すること。
	通信の暗号化レベル	32	TLS1.2以上で接続すること。

別紙4 データセンター設備要件一覧

カテゴリ	機能	項番	説明
セキュリティ	データセンターへの物理アクセスの記録・監査	1	多要素認証(MFA)と承認済みアクセスのみを許可していること。
		2	監視カメラ(CCTV)による24時間監視であること。
		3	ゲート、フェンス、障壁による多層防護であること。
		4	セキュリティスタッフが常駐していること。
環境	データセンターの継続運用	5	電力システムは冗長構成(停電時の業務継続を可能にする電力供給確保)であること。
		6	センター内過熱防止のため空調・湿度のリアルタイム監視を行っていること。
		7	火災検知システム、自動消火装置を装備していること。
		8	水漏れを検知するための浸水検知を装備していること。
		9	定期的な保守・点検を実施していること。
立地		10	日本国内にあり、地震・津波・台風・水害等の自然災害リスクを勘案した立地・建物設計であること。
ガバナンス	資格	11	SOC 2、SOC 3を取得していること。
		12	ISO9001、ISO27001、ISO27017、ISO27018を取得していること。

保 守 基 準 要 項

1. 保守サポート業務の概要

- (1) 各学校の教員、教育委員会からの当該契約に基づき機器及びシステムに関しての問合せ対応、故障等障害発生時の対応及び切り分け作業に基づく保守技術者の手配及び障害復旧を行う。復旧に係る部品代及び出張料、技術料は契約に含むものとする。
- (2) 保守を行うにあたっては、図書室業務に支障をきたさないよう配慮すること。
- (3) 約定時間外に作業を行う場合は学校に事前に通知を行い、承認を得てから行うこと。

2. 保守サポート業務

2-1 実施内容

- (1) 各学校の教員および教育委員会からのシステム利用に関する問い合わせに対して、電話・FAX・e-mail・にて調査・回答を行うこと。
 - ① 図書管理システムに関する操作方法および機能
 - ② 導入したハードウェアに関する操作方法
 - ③ 障害及び不具合に関する問合せ(機器、図書管理システム)
- (2) 各学校の教員および教育委員会からの利用不能の通知があった場合、原因の一次切り分けを行い、障害を特定すること。
- (3) 利用不能の一次切り分けの結果、訪問対応が必要な場合は、保守技術者の手配を行い、現地にて復旧作業を行うこと。(作業着手は1日以内、復旧完了までは3開校日以内を基本とする。)
コンピュータ故障時は現場修理対応を原則とし、図書室業務に支障が出ないように配慮すること。
- (4) ハードウェア保守は、導入したすべての機器について行う。
- (5) 消耗品、またはソフトのバージョンアップに係る経費は本調達の対象外とする。
- (6) 問い合わせ及び障害について開始から解決までの対応を行うこと。尚、その経過履歴を残すこと。
- (7) 教育委員会から求められた際は問合せの履歴を報告すること。また、問合せに対する回答内容も提供すること。
- (8) ハードウェア保守作業に従事する技術者は各ハードウェアメーカーの作業実績のある者が行うこと。
- (9) ウイルス感染の対応作業は本市セキュリティポリシーに従って行う。

2-2 実施条件

- (1) 以下の実施条件を満たすこと。
 - ① 学校からの問合せに対して、日中に連絡可能な窓口を受託業者が用意すること。
 - ② 業務実施時間(電話受付時間)は年末年始(12月29日から1月3日)、土曜日、日曜日及び祝日を除く 9:00から17:00までとする。
 - ③ ハードウェア、ソフトウェア別など内容で窓口を分けず、一次受付は1か所で行うこと。

以上